ひと

ポラスで新ブランド「フレーベスト」モデルハウスのインテリアを手掛ける

加藤（かとう） 里実（さとみ）さん

東武東上線沿線の分譲戸建ての新ブランド「フレーベスト」シリーズをはじめ、月5棟のモデルハウスのインテリアデザインを手掛ける。社内の企画・設計担当者からの指名が引きも切らず、「動きがなかった分譲地から『（モデルルームを見せて）即決した』と聞くのが励み」と声を弾ませる。

小学校5年の時、自宅のリフォームの際、自室のクロスやカーテンを自分で選び、改修工事を見届けて以来の夢を追う一方、産休・育休を経た3歳児の母親でもある。職場復帰から2年半を経た現在は、プランニング、工事の手配、小物の買い出しへ駆け回り、「18時に自宅へダッシュ」の日々だ。

“小5の夢”叶え一線に復帰

現在、同社のインテリアコーディネーターは全員女性。産休・育休を取得後、時短で復帰する人材は確実に増えている。

北欧系やフランス風の温かみのあるインテリアに定評がある一方、自宅は自身の好みのモダンでシンプルなテイストだ。一方で、床にバスケットなど、背の低い位置に収納を用意し、子どもが自分で片付ける工夫は、育児世代向けプランに活用している。触れる危険のない照明などけがを避ける配慮も身に付いた。

同社でインテリアコーディネートに携わり10年目。同僚からの相談も増えた。相手の表現したいことを尊重した上でのアドバイスを心掛ける。顧客との「やりたいことをうまく表現するお手伝いをする」ためのやりとりにも通じるという。

モデルハウスのインテリアコーディネートは「自分が提案したものがそのまま形になるところが醍醐味」という一方、「直接顧客の要望をヒアリングし、企画にフィードバックし、顧客の声を生かす役割もある」と語る。現在、クロスやタイルの色の決定段階からプランに携わる機会も出てきた。今後の夢は商材の提案など、企画段階からトータルで関わることだ。

（菜）